

松永ちか子

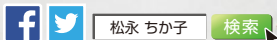
党相模原市議会議員

まっなが

一人ひとりのいのち輝く相模原へ

●プロフィール▶1955年鹿児島県奄美大島に生まれる。和光大卒。かながわ生協に勤務。現在、市議5期目、党市議団長。趣味は読書、映画鑑賞。中央区相模原に在住。

中央区
選出



9条改憲NO! 日本共産党

さがみはら市民新聞 2018年 秋・冬号外 日本共産党相模原市委員会
相模原市中央区中央 1-10-10 電話042(757)1613 FAX042(752)0634

国政 市民と野党の共同をひろげ 安倍暴走政治ストップ!

国政の私物化、公文書改ざん、隠ぺい、データねつ造、虚偽答弁…。次々と噴出し、行政への信頼は地に落ちています。あまりにもひどすぎる政治、もう変えるしかありません。力をあわせ、安倍自公政権を終わらせましょう。日本共産党は全力でがんばります。

- くらし壊す消費税 10%への増税やめよ
- 原発ゼロの日本、再生可能エネルギー社会へ
- 海外で戦争する国づくりNO!、憲法9条をいかす政治を



志位和夫委員長とガッチリ握手

市政 いのちとくらしを守る相模原へ

- 国民健康保険税を引き下げます
- 保育所・学童保育の待機児を解消し、質を確保します
- 大型開発優先のまちづくりをあらため市民の福祉とくらしを充実させます
- 小学3年生以上、早期に少人数学級を
- 高齢者のお出かけ支援、交通費補助制度を
- 米軍基地倉庫の立ち入り検査を。日米地位協定の見直し、早期全面返還を



市長に対し、「市政運営・施策要望書」を提出▶

活動
地域

相模原、清新、氷川町、小山、宮下本町、宮下、すすきの町、向陽町、南橋本、中央区下九沢、中央、横山、小町通、横山台、陽光台、上溝、田名、田名塩田、水郷田名

すべての人が 住みやすい相模原へ

ひきつづき

市政で働かせてください



子どもは希望・未来へ

津久井やまゆり園事件や相模総合補給廠の爆発火災事故など、本市で市民が恐怖、不安に陥られるようなことが立て続けておきました。日常生活のすぐ隣でおきた、忘れてはならない出来事です。

安全で安心して生活できるまちへ、自分らしく輝いて生きていけるまちへ、いまこそ、大型開発優先のまちづくりから市政の転換が必要です。

市民の声・願いをまっすぐ届ける議員として、市政を市民目線からチェックし、ダメなものはダメと言える議員として、ひきつづき全力で頑張ります。

あなたの願いを まっすぐ届けます

★子どもたち▼①小児医療費の無料化を中学3年生までと、何度も質問し、2018年10月から実現しました。今後は所得制限と一部負担金の廃止を求めていきます。

②保育園、学童保育の待機児解消と質の確保・充実を。
③小学校給食の自校調理方式継続と中学校給食の充実を。

★若者▼若い世代の声を市政の施策に生かすしくみづくりを求め、「子ども・若者未来局」の設置に活かされました。給付型奨学金の拡充、低所得の若者の家賃補助制度など、若者にとって、魅力あるまちづくりをめざします。

★高齢者▼①高齢者のお出かけ支援を！交通費助成で、健康増進、地域経済振興へ。
②医療・介護の安心とまちなかにベンチや公園、緑道を整備し、外出支援をひきつづき求めます。

★障がい者▼障がい者雇用率を順守させ、だれもが自分らしく生きることができると共生社会へととりくみます。

「いっしょでも、いっしょからも」共に「いっしょ」

市政を市民目線でチェックし、 くらし優先へ転換を求めます

①施策の優先性を 市民目線で

市は、JR横浜線の立体交差化事業(高架の場合、700億円から800億円、地下化の場合、1500億円から2000億円)の検討をすすめています。

不要不急の大型開発優先ではなく、社会保障・教育・災害対策、公共施設老朽化対策こそ強化すべき、との声をあげていきます。

②企業呼び込み型から 地域経済循環型へ

横河電機が奨励金5億円を受けながら、基準の10年



2013年に事業廃止になりましたが、今後も復活を求めています。

間接業せずに撤退。市議会が厳しく指摘し、貴重な税金2億円を返還させることができました。その後条例改正を求め、実現しました。

市内経済循環に貢献する住宅リフォーム助成制度導入を求め、2011年に政令市で初めて導入、市民、事業者が喜ばれ、経済波及効果も高いことが実証されました。

基地のない相模原へ

市内には3カ所の広大な米軍基地が存在します。キャンプ座間に弾薬コンテナが搬入され、3年前には相模総合補給廠で爆発事故が起きた。国に対し強く抗議し、基地の縮小・撤去を求めました。



米軍基地問題で国と交渉

市民の宝を

活かして

魅力あるまちへ

中央区西門に設置されている芸術家、故岡本太郎氏作「呼ぶ赤い手・青い手」は管理が十分でなく、ペンキがはげるなど痛みが激しいままです。本会議質問でこの作品を修復し、市民の宝として活かすことを提案。市長から「活用方法について検討していく」との前向きな答弁をひきだしました。本市の宝の発掘、創造で、市の魅力、市民満足度向上をはかります。



呼ぶ赤い手(写真上)
呼ぶ青い手(写真下)